

# ながぬま

謹賀新年



長沼町西9線南6番地付近

# 農業所得向上へ

## 全力を尽くす



ホクレン農業協同組合連合会  
代表理事長 内田 和幸

北海道内のJA組合員ならびに役職員の皆さまに、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

はじめに、昨年9月の北海道胆振東部地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆さまに、あらためてお見舞いを申し上げます。

ホクレンといたしましても、被災された組合員の皆さまの営農が一日も早く本来の姿を取り戻せるよう、今後も全力で取組んでまいります。

さて、昨年の北海道農業は、夏場の長雨や日照不足、その後の台風といった天候不順や、北海道胆振東部地震もたらした農地や農業施設

の被害、さらには、それに伴う大規模停電による農畜産物の集出荷、輸送、保管体制への影響などが重なり、地域や作目に違いはあるものの、総じて厳しい結果となりました。

米は作況指数北海道90の不良、小麦をはじめとする畑作物の多くも収量、品質ともに平年を下回ったほか、生乳生産も震災や停電の影響を大きく受けるなど、生産者の皆さまの「苦労は、例年とは比べものにならないものであります。今年とは比べものにならないものであります。収量、品質の確保に向けた皆さまの並々ならぬご努力に、心より敬意を表します。天候不順や自然災害に抗いきれないのが農業

であり、先人たちはそうした苦難を協同の精神で何度も乗り越え、今日の北海道農業を築いてまいりました。すでに生産者の皆さまは、本年の営農に向け気持ちを新たにされていることと推察いたします。

JAグループ北海道は昨年11月の第29回JA北海道大会で、「力強い農業」の実現を盛り込んだ将来ビジョンを引き続き掲げましたが、今まさに持続可能な北海道農業の構築に向けた「協同の力」への結集が求められている時だと考えております。

大会では「農業所得の増大」と「多様な担い手の確保・育成」などに取組むことを決議しました。ホクレンもこれに沿い、2019年度からの第13次中期計画の策定作業に入っておりますが、これまでの販売、購買、営農支援を三位一体とする事業展開をさらに深化させ、農業所得向上の推進役としての役割を担うことで、会員JA・組合員の負託に応えてまいります。

ホクレンは今春、創立100周年を迎えます。今日の北海道農業を築き上げてきた先人に感謝するとともに、ホクレンが果たすべき使命を再確認し、さらなる取組みにつなげていく年にしたいと考えております。

最後に、皆さまにとって本年がより良い一年となることをご祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

# 新年のご挨拶



代表理事組合長 成田 正夫

新年あけましておめでとうございます。

組合員皆さまにおかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業に対しまして、特段のご支援ご協力を賜りお礼申し上げます。

さて、昨年は大阪北部地震や西日本豪雨など、全国各地で災害が続発し、「北海道命名150年」の節目を迎えた北海道では、大雪・大雨の被害、天候不順による生育や農作業の遅延、9月5日に台風21号による暴風雨被害などがあ

り、さらに、9月6日には「胆振東部地震」が発生し、特に農業や北海道経済・生活に未曾有の被害をもたらしました。  
「二」数年の間にも、台風、集中豪雨、豪雪などの気象災害が頻発するとともに、予測不能な地震等の自然災害が、地域経済や生活インフラに大きな打

撃を与えています。この度の台風・地震など被害にあわれた組合員皆さまにお見舞い申し上げます。

また、甚大な被害状況となったことから、長沼町の支援をいただき、ハウス等については行政とJAが一体となった災害復旧支援事業を実施し本年の生産基盤の復興に向けて取組んでいるところです。

昨年の営農実績については、水稲の作況指数「南空知87」（北海道90）で9年振りの不良となり、米の館受入計画対比90%で、穂揃い不良による品質の劣化やタンパク値が高く、低タンパク米は昨年の75%から約4%と大きな落ち込みとなりました。「ゆめぴりか」については、基準品たんばく値7.4%以下が、昨年度97%から大きく落ち込むなか38%の全道平均を確保出来たことに対し、生産者皆様のご努力に敬意を表するところであります。

小麦は施設受入計画対比84%となり、粗原料

反収で7.9俵、製品で6.5俵、また、春播き小麦は、収穫期前後の降雨により品質の劣化で大幅な減収となりました。  
大豆も施設受入計画対比61%で、長雨や台風の影響から大幅な減収と汚粒による品質の低下を招き、2等品位で30%にとどまったところでもあります。

野菜については、全般にわたり収量は減収したものの、トマトの販売額が6億4千万円、ブロッコリーの販売額が6億2千万円となり、品質についても高い市場評価をいただいております。

農産物全体の販売額については、長雨・低温・台風などの影響から収穫量が大きく減少し、生産者のご苦労が報われない1年となりました。  
一方、国内外では、農業・JAに対する現場軽視の改革圧力、さらには、TPP11、日EU・EPAの発効や新たな日米間の物品貿易交渉の開始が迫るなど、国際貿易交渉による国内農業への圧力が絶えない状況にあります。

昨年11月に第29回JA北海道大会が開催され、JAグループの意志を結集し、組織・事業機能の強化を図るべく、3か年毎に開催しておりますが、JAグループ北海道が農業・JAをめぐる諸情勢に対応し、目指すべき将来ビジョン「道民550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』を実現」するため、グループ全体で共有すべき課題及び重点取組事項が決議されました。JAグループ北海道の会

員JAとして、農業経営の安定と暮らしの安心を確保し、地域農業の振興・発展に向けて、新たな自己改革へ取り組みしていかなければなりません。

JAでは平成33年度を目標とする農業振興計画を策定し、テーマを「次代へ継承するながめま農業」農業者の所得増大と豊で魅力ある地域づくり」を掲げ、地域農業を支える担い手の確保と育成、農業所得増大とコスト低減の取組みを推進し、活力ある地域づくりを目指してまいります。

農業・農協を取り巻く環境は、常にその時代の農業政策に大きく影響されますが、農業が果たす役割こそが国民の食と命を守り、さらに、農業の持つ多面的機能が国土を守ることに農業者の自信と誇りを持ち、農協に組合員が一致団結した力を傾注することにより、山積する課題に克服しなければなりません。

農協は、「組合員」自らが出資をし、利用をし、経営することで、組合員個々の経営に寄与し、合わせて地域社会に貢献することを目的とする組織であります。この思いを組合員皆さまと役員・職員が共有しながら、ながめま農業の価値を高め魅力あるものにするために、関係機関と連携し、事業推進に取り組んでまいりますのでよろしくお願いたします。

結びに、新しい年が災害のない豊かで実り多き明るい年となりますよう心からご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

# 賀正

二〇一九年元旦

## ながめま農業協同組合

会長理事	内田和幸
代表理事組合長	成田正夫
専務理事	柴田佳夫
常務理事	飛谷博秀
総務・経済対策委員長	中原幸弘
営農委員長	堂林克敏
総務・経済対策副委員長	大澤誠治
営農副委員長	富澤正雄
理事	服部正幸
理事	松井昭洋
理事	川口学志
理事	小野功治
理事	北弘治

代表監事	佐々木博美
常勤監事	仲山幸雄
監事	井形聡
監事	川崎喜昭
内部監査室長	松本豊
管理部長	細川秀樹
金融部長	岩崎徹
経営相談部長	波川浩己
営農部長	森正敏
販売部長	高瀬好之
資材部長	松村裕二
管理部次長	高嶋良幸
金融部次長(共済担当)	富澤和幸
販売部次長(園芸蔬菜担当)	山村範人
営農コンサルタント	村井忠夫
営農コンサルタント	阿部秀幸
外職員一同	

# 平成31年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

会長 飛田稔章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい平成31年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、7月の豪雨や台風21号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の損壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。

さらに9月6日に発生した北海道胆振東部地震により尊い命が失われるとともに、農畜産物や農業施設等に未曾有の被害が発生し、道内全

域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やJAグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じてしまいました。

現在、JAグループ北海道を挙げて、1日も早い、復旧・復興に向け、全力でその支援対策に取り組んでいるところであります。

作目別の作況をみますと、米は、作況指数が90の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、てん菜は、収量・糖度とも概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、今後は飼料作物の品質低下等による生乳生産への影響が懸念されているところと見られます。

国際貿易交渉については、9月27日、日米両

国が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始に合意したことが発表されました。

今後、TAG交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があるため、その動向を注視していくとともに、農畜産物を犠牲にしない毅然とした対応を求めてまいります。

さて、昨年11月には、第29回JA北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」の加速に取り組むとともに、「サポーターづくり」の活動拡大として、地域を共に支える准組合員の皆様のご意見の把握に、これまでに取組むことを決議しました。

また、協同組合の原点を、あらためて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討してまいります。

そして、この3年間の実践期間のうちに、2019年5月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、2021年3月には「准組合員利用規制の調査期限」を迎えますが、JAグループ北海道としては、改革は自ら行うものとして、『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現に向けて、JAグループ一丸となって、大会決議事項の実践を通じた自己改革を進めてまいりたいと考えております。

## 秋まき小麦収穫後のブロッコリー試験栽培結果について

農協では、農業所得向上を目的として、営農部、販売部、経営相談部、営農コンサルタントが連携し、小麦収穫後のブロッコリー試験栽培を実施しました。

今年、初めてブロッコリー栽培に取り組まれる生産者4名を対象として、は種時、定植時、収穫時の栽培講習会を実施し、8月に定植し10月に試験ほの収穫を終えました。

### (成 果)

1. 土壌改良、排水対策を行えば、新規栽培でも十分に栽培効果を得られる
2. 基本技術を厳守すれば病害虫や生理障害を回避できる
3. 産地評価による有利な販売単価により所得確保ができる
4. 小麦後作の作型が可能であり、畑作輪作が実現できる



### (課 題)

1. 収穫労力が短期（1週間）に凝縮する作型のため労働力確保が必要
2. 連作は厳禁であり、4年輪作を前提とした栽培計画とすること
3. 土壌改良、排水対策、土壌病害に注意を怠らないこと
4. 個々で機械設備（は種機、移植機）を持つ場合には、減価償却、労務費を客観的に分析すること

試験栽培の総括としてブロッコリーは、輪作体系確立、所得増加の視点から、有望な経営導入作物であり、生産者の感想は、「経験者や農協の助言もあり、チャレンジした成果に満足している。来年は、取り組み作型を検討し栽培規模を増やしていきたい」とのことでした。

### 経営事例

(円)

費用項目	区 分	金 額	備 考
直接費	種 苗 費	14,840	種子
	肥 料 費	26,445	土壌改良剤、基肥、追肥
	農 薬 費	9,960	殺虫、殺菌剤
	生産資材費	19,220	トレイ、培土、覆土
(小計)		70,465	
間接費	農 具 費	5,430	コンテナ、包丁
	光熱水道費	6,380	ガソリン、軽油
	販 売 費 用	27,504	流通手数料
(小計)		39,314	
合 計		109,779	

収益項目	区 分	金 額	備 考
規格内販売額		343,800	
合 計		343,800	

所得金額 販売額(343,800円)－費用合計(109,779円) = 収益 **234,021円/10a**

所得率 **68%**

- 記載注釈
- ①経費については標準経費（長沼営農 NAVI27）に実態を加味して算出した。
  - ②販売額については本例の実態数値を用いた。
  - ③減価償却費、賃料料金、労賃は計算に含んでいない。

## 新年のご挨拶



空知農業改良普及センター

空知南西部支所

支所長 宗像 政美

新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた平成31年の新春をご家族とともに迎えられることを心からお慶び申し上げます。

結びになりますが、今年の干支は己亥（つちのとい）です。  
亥には、「無病息災」や「安定した状態」で始動を待つ準備期間の意味があるとのことであります。

今年はこの亥年にあやかり、災害がなく、そして組合員の苦労が報われる実り多い豊稔の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、従業員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。

昨年は雪解けが平年より9日早く、春作業は順調なスタートとなりました。その後、水稲は十分な苗質が確保され、移植作業もほぼ順調に経過しました。

しかし、6月2半旬より一転、低温・寡照で水稲の初期生育は極めて不良となり、さらに、連続降雨で小麦類の防除が滞り、大豆は生育停滞・湿害の発生が見られました。

その寡照傾向は7月4半旬まで続きましたが、水稲では幼穂形成期後半から天候が回復し、不稔発生はほぼ平年並でした。8月3半旬から再び寡照・多雨となり、穂揃性は悪く、登熟は緩慢となり日数を要しました。

その結果、南空知地域で水稲の作況指数は「87」と9年ぶりの「不良」に至ってしまい、畑作物全般も同様な年でありました。さらに、追い打ちをかけるかのような台風21号・胆振東部地震と多くの災害に見舞われた年となりました。

そのような厳しい年でありましたが、園芸品目のトマト・ブロッコリーは共に過去最高の販売額を更新出来たことは、ご家族や地域が力を合わせ、弛まぬ努力と長年にわたる土づくりなどへの取り組みや、高い生産技術があつてこそその結果だと敬意を表します。

農業・農村を巡る環境は大きく変化しており、TPP11や日EU・EPAの妥結など経済のグローバル化が進展するなか、国においては、米

政策改革をはじめ、主要農作物種子法の廃止や指定生乳生産者団体制度の見直し、昨年から加入申請が開始された収入保険制度など、幅広い農政改革が進められています。また、道内の人口が全国を上回るスピードで減少するなか、農家戸数は年々減少し、加えて高齢化の進行に伴う労働力不足や農村コミュニティの低下といった課題に直面しており、その対応が急務となっております。さらに、多発する自然災害への備えも必要です。

将来の見通しが不透明であり、また極端な気象が今後も続くと懸念されますが、どのような状況下でも「地域の豊かな大地を守る」ことを基本として、各組織の力を活かした効率的な農畜産物の生産を目指すことが大切と思われま

普及センターとしても、基幹作物の栽培管理を基本に各種試験展示ほや現地実証を行い、品質向上や効率的な生産に向けた普及活動を関係機関と連携しながら推進しております。

職員一同、今年も基幹作物の安定生産を第一に支援を行い、地域の農業振興に少しでも力添え出来ればと考えております。

皆様にとって輝かしく豊かな年となると共に、皆様のご多幸と益々のご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

## 第67回全道JA青年部大会が 開催される

JA北海道農協青年部協議会は12月6日～7日、札幌市で第67回全道JA青年部大会を開催しました。約850人が参加し、JAながぬま青年部からは、本部役員、プロジェクトメンバー等15名が参加しました。大会テーマである『Exciting Innovation 農力全開!』のもと、全道各地区代表の部員が農業や青年部への思いを語る「青年の主張」や、青年部の活動実



績発表を披露しました。

また、大会宣言として第29回JA北海道大会で決議された『協同の力で「農業所得の増大」と「多様な担い手の確保・育成」を実現』、『次代につなげる協同組合の価値と実践』を、JAグループ北海道の将来を担う青年部が牽引しJA運動の先頭に立つ組織としての責務を再確認し行動していくとともに、協同活動の歴史を受け継ぎ、「力強い農業」と「豊



かな農村」の実現に向けて強く決意すると宣言しました。

さらに特別決議も採択され、協同組合にさらに結集し、持続可能な北海道農業の確立に総力を挙げ、災害に強い農山漁村づくりを目指し、北海道550万人から信頼され、我が国の食料供給基地としての使命を果たしていくと宣言しました。

### 動画プロジェクトで優秀賞受賞

全道JA青年部大会において、農業関係者と消費者が共感を持てるような動画を作成する「動画で発信!



農の魅力」コンテンツが開催され、全道69の青年部が参加しました。JAながぬま青年部は、主品目の小麦・大豆をピックアップし、誰もが身近なラーメンをテーマにしました。「全ては畑からやってくる」をコンセプトに動画を作成し、優秀賞（農産物部門）を受賞しました。

なお、動画についてはJAながぬま青年部のフェイスブックにてご覧いただけます。



優秀賞を受賞!

## 青年部営農懇談 会開催

12月10日、農協大会議室において青年部と農協役員との営農懇談会が開催されました。

「平成31年度農協事業計画(骨子)」の説明ののち、青年部より本年の災害や今後の災害対策、組合員戸数の維持や担い手の確保、輪作体系など将来のながぬま農業に対する意見や質問等が出され、有意義な懇談会となりました。



## スノーメッセージ・ ファームレター 最優秀賞受賞!

11月に開催された空知JA青年部大会において、農業生産者のメッセージを「未来へつなげる希望」をテーマに作成し、消費者へ伝える『ファームレター』の表彰が行われ、管内12の青年部の中で、JAながぬま青年部が最優秀賞を受賞しました。

また、先に行われた農業者の心意気を消費者にアピールする『スノーメッセージ』においても管内でJAながぬま青年部が最優秀賞を受賞しました。



スノーメッセージ

## 4Hクラブ 最優秀賞受賞!

12月4日、空知青年農業者会議が空知総合振興局で開かれ、アグリメッセージの部で30区の大橋昂文さんが最優秀賞、プロジェクト発表の部で21区の保井優介さんが優秀賞を受賞し、その報告に農協を訪れました。

大橋さんは、「魔法の言葉が聞きたくて」と題しアグリメッセージを発表、保井さんは「トマトの生理障害を克服するには」と題しプロジェクト

クト発表をおこないました。

1月29日～30日に開催される北海道青年農業者会議に向け「練習

を積み重ねて受賞を目指したい」と語ってくださいました。成田組合長より「ながぬま農業を担う皆さんに頑張ってもらいたい」と激励の言葉が述べられました。

今後、皆さんの活躍に期待したいと思います。



未来へ  
繋ぐ歩み



ファームレター

## 女性部秋季研修旅行

11月26日～28日、女性部秋季研修旅行を18名が参加のもと函館方面から洞爺伊達の2泊3日バスの旅を実施しました。北海道命名150年、歴史の街函館満喫旅行となりました。初日は、八雲町で昼食を取り、七飯町の北海道昆布館で昆布製品や昆布資料館や函館ワインの製造所を見学し、初日のメイン、ロープウェイで函館山に上がりました。夕暮れから夜景に変わりはじめる時間で、徐々に夜景広がり本当にきれいでし



た。この日は朝食日本一の「ラビスタ函館ベイ」に泊まりました。2日目は北島三郎記念館へ行き、活弁師のような案内係が生い立ちなどを説明してくださり最後は実際の舞台装置で「まつり」を鑑賞しました。その後は明治館などのベイエリアや函館朝市などを自由散策し、その後今年オープンの道の駅「なないろななえ」に立ち寄り、七飯町の特産品などを見学しました。2日目は洞爺湖温泉「乃の風リゾート」に宿泊となりました。

3日目は洞爺火山科学館で2000年に起きた有珠山噴火の映像をみて資料館を見学しました。次に伊達へ行き藍染の体験をしました。北海道で唯一藍を生産している農家が伊達にいたことから体験施設があり、今回はバンダナを染めました。絞りをしたり型を使ったり折り返しを付けたりとそれぞれの個性が光る世界に一つだけの宝物がまた一つ出来ました。藍染体験後は隣接する道の駅で新鮮な野菜や果物を購入し、他にもたくさんのお土産を持って家族のもとへ無事に帰宅しました。好天に恵まれて、美しい夜景や街並み、雄大な駒ヶ岳や噴火湾、な

ど北海道の魅力が満載なバスツアーとなりました。



## フレミズ後継者育成対策研修旅行

11月22日～23日、部員11名が参加のもと洞爺、余市、小樽へ研修旅行を実施しました。初日は宿泊先の洞爺湖へ向いました。夕ぐれ時に白鳥大橋を渡り、眼下に広がる工場の灯りはとてもきれいでした。また洞爺湖温泉では40万個のイルミネーショントンネルを全員で歩き記念写真を撮影しました。翌日は、余市のニッカウヰスキー



を見学し、試飲コーナーでウヰスキーをいただきました。昼食は、鮭ブッフエダイニングでお寿司を満喫しました。午後からは小樽で吹きガラスの体験をおこないました。事前に決めたグラスや小鉢、一輪ざしなどを職人さんに対いで教わりながら作成し、多少のゆがみはあるものの、とても上手に出来上がりました。その後は小樽自由散策し、家族へのお土産を持って帰宅しました。

## 女性部Aコープ酢料理講習会

11月22日農協会議室においてAコープ酢を使った料理講習会を行いました。フレミズ部員14名が参加しました。Aコープ酢製造の大興産業から栄養師の方が机上講習をされました。今回は全国のフレミズ有志と共同開発された「ほめられ酢」を使った、黒豆ちらしずし、マスタードチキンステーキ、春雨サラダの三品を作りました。黒豆と炊いたご飯は灰色をしていましたが、酢を加えるとききれいな桃色になり、みんな驚きました。



また、黒豆を酢に着けたドリンクや簡単にできるピクルスなども教えていただき、「これなら子供やパパも食べるかな？」と家族の健康を考えた料理を学びました。



## 女性部ライラック部会UVレジンでチャーム作り

12月6日、UVレジンでチャーム作りを部員18名で行いました。UVを当てることで固まる特殊液を利用して、プレートに装飾し、液を流し入れてオリジナルのチャームやペンダントトップを作りました。プレートの形や装飾品の種類が多く、デザインに迷いながらも時間をかけ作成し、出来上がりはとても素敵な一品ができました。

## 女性部なないろスプーン部会家族が驚くパーティー料理とお茶会

12月10日、パーティー料理を部員12名で6品を3班に分けて作りました。

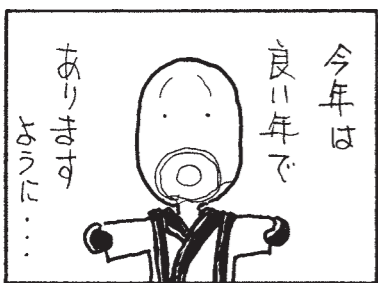
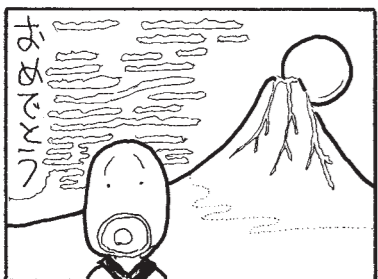
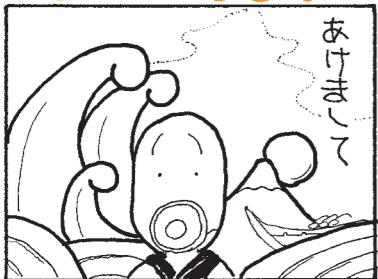


1. スペイン料理「パエリア」と酢を使ったデザート
2. 「コブサラダ」と枝豆ペペロンチーノ
3. ローストチキンとかぼちゃのスープ

「コブサラダって昆布?」、「パエリアは家でも作れるね」、「枝豆って塩ゆでだけじゃないんだ」と新しい料理をレシピを見ながら挑戦しました。午後からは部員の方が本格的なお茶を立て、大豆餡餅を焼きて、至福のひと時を味わいました。



# クミカン



## 健康管理講座 温泉湯治 に参加しましょう!

農協では、組合員とその家族を対象に健康管理講座を下記の要領で実施します。

多数の方が参加されますようご案内申し上げます。



### ～ 実施要領 ～

1. 対象者	ながめま農協の正組合員・家族であり、町内在住の満60歳以上の方
2. 実施期間	平成31年2月12日(火)～16日(土) (4泊5日)
3. 募集人員	40名程度
4. 研修先	登別温泉ホテル まほろば
5. 研修内容等(予定)	湯治、健康管理についての講演・血圧測定、学生落語、カラオケ等
6. 参加料金	個人負担 38,000円(予定)
7. 申込期日	平成31年1月31日(木)まで
8. お申し込み先	農協本所 営農部営農企画課 TEL 88-2232 (持病のある方は申込時に報告してください)
9. 参加料金納入	組勘・普通口座より引落しさせていただきます

## 営農用石油特別価格対策の実施について

燃料センター系統石油事業では、営農コストの低減を図るため、農業用免税軽油と米麦乾燥などの農業用灯油について、特別対策を実施しております。

平成30年度につきましても、取扱実績に対して、次の通り値引き修正をもって、特別価格対策を実施いたしましたのでお知らせいたします。

12月14日付で、各々のクミカンまたは普通貯金に修正経理いたしました。

品名	免税軽油	農業用灯油
対象期間	4月1日～11月30日	7月1日～11月30日
値引修正(1ℓ当り)	4円	4円

お問い合わせ 長沼燃料センター TEL 88-2015



## 『営農計画樹立』は家族ぐるみで!

本年も営農計画を樹立する時期となりました。この時期にじっくりと営農に取組み基本方針を立てることが最も重要であり、また、各作物の生産性向上や気象条件などによる危険分散することも考慮し、作付品目などを計画する必要があります。

今年度の営農計画書作成にあたっては前年度の実績を踏まえ、肥料・農薬等の生産資材の効率的利用、コスト低減と経費の節約に努め家族ぐるみで実行可能な計画を樹立し経営の安定に努めていただきますと思います。

なお、営農計画書の提出期日は2月12日までとなっておりますので、期日を厳守し提出してくださいようお願い申し上げます。

お問い合わせ 経営相談部 経営相談課 TEL 88-2229

## 融雪剤散布による融雪促進



融雪は気温との関係が高く、3月上旬から融雪が急激に進みます。降雨等によっても融雪が進みますが、大部分は雪面への日射(太陽熱の吸収)と空気からの熱伝導によるものです。

融雪剤散布による雪面黒化は、高い融雪促進が期待できます。

**融雪剤の散布適期は、3月1日以降早い時期が効果的。**

### 1 融雪促進の効果

積雪量が多い年ほど融雪促進の効果が大きくなるので、3月に入ったら直ちに融雪剤の散布を行ってください。

融雪剤による融雪促進効果は、散布時期や散布後の気象条件で異なりますが、通常では7～10日程度、条件が良い場合は10～15日程度促進します。

融雪剤散布による融雪促進効果の調査

区分	融雪剤散布日	融雪日	無散布区との差
融雪剤散布区	3月1日	3月25日	10日促進
無散布区	—	4月4日	

JANAながめま調査

### 2 融雪剤散布量と散布方法

融雪剤の散布量の目安は下記の表を参考にして、積雪状態(雪質)や天候の推移を勘案して散布量を増減してください。

散布方法は、畑一面に均一散布よりも、ややムラまき(散布後に凸凹ができる)の方が効果が高く、かつ雪面上が凸凹の方が融雪は促進されます。

10a当たり融雪剤散布量の目安

区分	資材名	散布量/10a
畑	防散融雪炭カル(粒)	各資材とも40～60kgが目安
	クミアイアッシュ	
	スーパーミネカル(粒状)	
水田	珪カル(粒状)	融雪剤として40～60kgが目安

### 3 早期に融雪剤の注文・確保を行いましょ

お問い合わせ 本所資材センター TEL 88-2307・88-0278

## 理事会報告 - 第 12 回 -

《平成30年12月14日開催》

[ 議 案 ]

- 第1号 第3四半期自治監査講評
- 第2号 内部監査規程の一部変更について
- 第3号 平成31年度内部監査計画の策定について
- 第4号 ホクレン災害支援金の支払いについて(北海道胆振東部地震・台風21号被害)
- 第5号 平成31年度営農計画に係る農産物価格の設定について
- 第6号 平成31年度営農説明会の開催について
- 第7号 事業推進員会議の開催について
- 第8号 信用の供与等の決定について
- 第9号 組合員の資格変更について
- 第10号 平成30年度決算見込みについて(11月末現在)
- 第11号 年末賞与の支給について

[報告事項]

1. 会議行事報告について
2. 小麦収穫後のブロッコリー栽培試験結果
3. 平成30年度(一社)北海道農協経営審査協会の内部審査報告について(7月～11月実施分)
4. その他

以上、すべての議案について審議し原案通り承認されました。

### 今月の組合員数

組 合 員 1,627名  
 正 組 合 員 ( 846名)  
 准 組 合 員 ( 781名)  
 正組合員戸数 723戸

## 農協の動き 11/23～12/14

### 11月

23日	新嘗祭	於 長沼神社
27～30日	秋季長期共済推進	於 組合員宅
28日	粃バラ施設運営協議会	於 農 協
28日	事業推進員会議	於 農 協
28日	空知玉葱共販協議会	於 空知農業会館
29～30日	全国監査機構期中Ⅱ監査	於 農 協

### 12月

3日	空知管内JA監事協議会役員会	於 空知農業会館
4日	栗山地区金融機関防犯連絡協議会総会	於 栗山警察署
4～7日	地区懇談会	於 各地区会館
7日	札幌クボタ道央南営業所落成式	於 道央南営業所
10日	青年部営農懇談会	於 農 協
11日	農協役員改選に伴う地区代表者会議	於 農 協
11日	空知種いも協議会	於 空知農業会館
12～13日	南々米生産流通協議会取引先訪問販売	於 沖縄食糧
13日	園芸連札幌卸売市場表敬訪問	於 札幌卸売市場
13日	JAバンク北海道空知地区戦略会議	於 空知農業会館
14日	総務経済対策委員会	於 農 協
14日	監事会	於 農 協
14日	理事会	於 農 協

# 初売りの

あさ10時から



A-COOP

Aコープ

ながめま店



2019

1月4日

(金)

## 最新の営農技術から 農畜産物の市場見通まで

●お申し込みは JA へ

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS  
**日本農業新聞**  
[www.rougyou-shimbun.ne.jp](http://www.rougyou-shimbun.ne.jp)

